

9 YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏 名	MS	学部・学科	国際教養学部・国際教養学科
学 年	3 年	派遣国	マレーシア
派遣大学	マレーシア科学大学		
期 間	2024 年 9 月 3 0 日～2 0 2 5 年 8 月 3 日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / <u>アパート</u> / その他 ()					
部屋	<u>個室</u> / 2 人部屋 / 3 人部屋 / その他 ()					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	◎	シャワー	◎	洗面所	◎
	キッチン	◎	冷暖房	○	冷蔵庫	◎
滞在費	約 (90,000) 円 *1 ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	(徒歩) で、約 (20) 分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先 2 の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1 ヶ月の生活費

項 目	金 額	内 訳
食費	35000 円	外食、grab food(デリバリー)
学用品購入費	0 円	ほぼなし
交通費	15000 円	タクシー
交際費	30000 円	バー、映画、アクティビティなど
その他	10000 円	コンタクト、美容院など
合計	90000 円	*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

私の住んでいたエリア（大学付近）は夜一人で歩いても安全です。ただ警戒するに越したことは無いので、基本的な海外での気を付けることは守っていました。人よりも野犬が怖かったです。

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学 / その他 ()		
加入期間	(11) ヶ月間	保険料	(114380) 円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称	Health Insurance		
加入期間	(12) ヶ月間	保険料	(13000) 円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市／町 (**penang**)

マレーシアの主な民族構成はマレー人、インド人、華人、アラブ人で成り立っていますが、ペナン島は華人が約 50 パーセントを占める、中華風の街です。しかしながら多民族国家ならではの特徴で、街にはモスク、キリスト教のチャーチ、ヒンドゥー教徒の寺院など多様な宗教施設が立ち並んでいます。

ペナン島はマレーシア第二の都市です。ペナンに来る前は、リゾート地だと思っていましたが、どちらかというと都市の要素が強い気がします。物価は日本とあまり変わりません。しかし映画や夜行バス、タクシー、外食は日本よりもずっと安いです。

【学業編】

1. 大学情報

大学	マレーシア科学大学	所在地	Gelugor, Palau Pinang
最寄空港	ペナン国際空港	空港からの距離	車で15分
空港⇄大学	(タクシー) *		
	移動手段		
学生数	約 31500 人	留学生数	約 2000 人
学部	・ Art ・ Chemical Science ・ Computer Science ・ Graduate School of Business ・ Humanities ・ Language ・ Mathematical Science ・ Physics ・ Biological Science ・ Communication ・ Engineer ・ Housing, Building and Planning ・ Industrial Technology ・ Management ・ Pharmaceutical Science ・ Social Science *留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	INTERNATIONAL MOBILITY AND COLLABORATION CENTER (IMCC) *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

2. 週間スケジュール

① (9)月～(2)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	勉強、外出	授業	授業準備	授業	勉強、外出
午後	勉強、外出	授業	授業準備	授業	勉強、外出

② (3)月～(7)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	授業	授業	睡眠	授業準備	勉強、外出
午後	授業	授業	授業	授業準備	勉強、外出 IN

3. 履修内容

科目	International Business Strategy		
履修期間	第一セメスター	単位数	3
授業内容／形態	グローバル化が進む中での企業戦略について学ぶ。 主に、教授がスライドを使って進める。企業をランダムに 2 つ選んでその企業の失敗と成功についてグループディスカッションし、プレゼンする。		
成績			
YCU 振替予定	科目	Global Business Strategy	
	単位数	2	
	担当教員	高木 俊雄	

科目	ASEAN and Asian pacific		
履修期間	第一セメスター	単位数	3
授業内容／形態	ASEAN の歴史と地理について学ぶ授業。東南アジアがどのように発展したのかそしてその背景にある文化についても考える。一斉授業。		
成績			
YCU 振替予定	科目	東南アジア研究	
	単位数	2	
	担当教員	柿崎 一郎	

科目	Business communication		
履修期間	第一セメスター	単位数	3
授業内容／形態	ビジネスにおける英語でのコミュニケーションやマナーを学ぶ講義。各グループに分かれてそれに関わるテーマのプレゼンをする。私のチームは job interview に関して tip を 10 個あげ、ロールプレイを混ぜながらプレゼンをする。		
成績			
YCU 振替予定	科目	特講	
	単位数	2	
	担当教員		

科目	Information Society		
履修期間	第二セメスター	単位数	3
授業内容／形態	このコースでは、メディアが溢れる環境の中で私たちを取り囲む無数のサインやシンボルによって特徴づけられるポストモダン社会の中で私たちがどう生きるかを学びます。 80%コースワーク 20%最終試験		
成績			
YCU 振替予定	科目	メディア社会論	
	単位数	2	
	担当教員	角田 隆一	

科目	Issue of urbanization		
履修期間	第二セメスター	単位数	3
授業内容／形態	都市化に関連する問題とそれが開発に与える影響について学びます。土地利用の変化、人口、工業化、交通、持続可能な開発、食糧安全保障などの都市化の問題に重点が置かれます。100% コースワーク		
成績			
YCU 振替予定	科目	都市空間形成論	
	単位数	2	
	担当教員	秋元 康幸	

科目	Gender, ideology and power		
履修期間	第二セメスター	単位数	3
授業内容／形態	このコースでは、ジェンダーの社会的基盤、特に社会における女性性と男性性の実践、そしてこれらの実践が個人のアイデンティティやその他の社会的側面に与える影響について学びます。 100%コースワーク		
成績			
YCU 振替予定	科目	なし	
	単位数		
	担当教員		

科目	General English 2		
履修期間	第一セメスター	単位数	2
授業内容／形態	英語の 4 技能を高める授業。教科書に沿って進めていく。一斉授業。		
成績			
YCU 振替予定	科目	なし	
	単位数		
	担当教員		

<総括>

(1) 全体的な感想

*留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800 字以上)

一年間があったという間に終わってしまった感覚です。毎日が発見だらけで、それは一人暮らしという意味でもそうですが、異文化交流をするという意味でもあります。マレーシアはマレー人、華人、インド系の多民族国家なのですが、私のいたペナン島は欧米からの移住者も多かったです。だから様々な国の人と交流する機会が溢れていて、お互いに、お互いの文化を教えあいました。世界中に友人が出来たことが嬉しいし、コレクションが作れたことが一番の成果かと思います。同時に国別の経済的な格差を感じたり、その国の中でもまた競争があったり、世の中の理不尽さも同時に感じました。

例えば、マレーシアのバスターミナルに行ったときにエスカレーターが怖くて乗れない人を見ました。最初は全く状況がつかめませんでしたが、後にローカルの友人にこのことについて尋ねてみると、かれらはイスラム系南アジア人でとくにバングラデシュやパキスタンからきた出稼ぎ労働者であると教えてもらいました。そしてもう一つ格差を感じたこととして、肌の色によって仕事の種類が異なる傾向があることも挙げたいです。人種によって完全に仕事が分けられているわけではないのですが、清掃員やインフォーマルセクターでのワーカーは肌の色が暗い傾向があります。日本は単一民族国家のためこの現象を身近に感じる機会がありませんでした。しかし、マレーシアは移民を積極的に受け入れている多民族国家なのでこのようなことが起こっています。日本はどの国に近い未来を歩むことになるのか考えさせられました。

また、留学先の国をムスリムの国にしてよかったと心から思います。もちろん、慣習や食文化など日本人として理解できない部分はありました。しかし、自分がマレーシアに「いさせていただいている」という認識を持って、理解に努めました。例えば、日中に絶食をするラマダンに挑戦したり、実際にムスリムの友人から話を聞いたり、ムスリム国家でしか体験できないことを積極的に身にもって経験することを大切にしました。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400 字以上)

この一年の体験をもって、困った人や外国人がいたら助けてあげたいです。なぜなら自分もローカルやエクスチェンジに沢山その国のことについて教えてもらったり、サポートを受けたりしたからです。それは道端で起こる些細なことに対してもそうですが、自分の職業にも繋げたいです。特に、ムスリム国家の女性の権利について関心があります。留学中、たくさん理不尽を目の当たりにしました。例えば、一部のムスリム女性として生まれてしまったら、夫の許可なしでの外出は禁止、そしてヒジャブの着用が義務付けられています。実際にムスリムの友人が「日本に行けたら、ヒジャブをとって過ごしてみたい」と言っていました。これらは宗教的な慣習の側面が強いですが、だれもが強制されるべきではないと思います（本人の意思があればいいと思います）。これらの世の中の理不尽と戦うために、今後の横浜市立大学の授業ではグローバルサイエンスを基に、ゼミでは国連を自分の研究として扱って理解を深めたいです。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

これはすごく個人的なアドバイスなのですが、特定の国に憧れない限り、多民族国家と日本と政治体制がかなり違っている国を推薦します。正直に言って、はじめマレーシア（ペナン）を選んだ理由はリゾート地で一年間すごしてみたかったからです。つまり、多民族国家を理由に選んではいなかったのですが、この一年過ごしてみて多民族国家を理由に学ぶことが多かったです。そして世界には意外と多民族国家は少ないので、選ばれた人にしか体験できない貴重な出来事にも出くわすことができます。代表例でいうとアメリカ、オーストラリアなどが挙げられます。

そして、政治体制についてですが、留学の醍醐味として世界中の人と政治トークをするということがよく話に挙がると思います。マレーシアの場合、華人が多いのとムスリム国家ということもあって、割と日本と真逆の政治的なスタンスを持っている人が多いと感じました。だからといって、けんか腰に反論するわけではありません。相手が何を考えているのか、その考えている背景は何なのか聞いて、そう考える人もいるのだという姿勢で理解することが大切です。